

■ 第12回 多摩川流域セミナー

みんなの夢を実現しよう！

水流実態解明プロジェクト・多摩川流域リバーミュージアム

主催：多摩川流域懇談会

● 日時

・・・ 2003(平成15)年1月18日(土) 13:30～16:00

● 内容

・・・ 2001年3月、多摩川の将来像計画である「多摩川水系河川整備計画」が策定され、“多摩川流域まるごと博物館”を目指す「多摩川流域リバーミュージアム(TRM)や、多摩川に望ましい水質と水量を取り戻すために調査・研究を進める「水流実態解明プロジェクト」などを、市民、河川管理者、流域自治体など、様々な立場の人々のパートナーシップによって推進していくことになりました。それから1年半、TRMでは二ヶ領せせらぎ館を拠点に情報発信、流域の学校や市民団体の活動支援、研修などを、水流実態解明プロジェクトでは、現状と課題の共通認識をつくる現地見学会、「多摩川水流解明キャラバン」を野川、平瀬川、二ヶ領用水、浅川などで行っています。多摩川流域の“いい川づくり”のコーディネーターである「多摩川流域懇談会」では、これらの中間報告を踏まえて、TRMや水流実態解明プロジェクトをより良いものにしていくため、「第12回多摩川流域セミナー」を開催します。

・・・ 話題提供

(1) 「試行開始から1年半TRMの中間報告」

多摩川流域協議会事務局(国土交通省京浜工事事務所)

(2) 「水流実態解明プロジェクトについて」

多摩川流域協議会事務局(国土交通省京浜工事事務所)

(3) 「シンポジウム“多摩川の水質と流量”を行って」

多摩川市民フォーラム

・・・ ディスカッション「多摩川らしい水流とは？」

■ 第12回 多摩川流域セミナー 開催報告

みんなの夢を実現しよう！

水流実態解明プロジェクト・多摩川流域リバーミュージアム

主催：多摩川流域懇談会

平成15年1月18日(土)13:30から第12回多摩川流域セミナー(主催：多摩川流域懇談会)を、東京農業大学・グリーンアカデミーホールで74名の市民、行政関係者にご参加いただき開催いたしました。

挨拶文 高橋裕(多摩川流域懇談会会長/東京大学名誉教授)



高橋でございます。今日はたいへん具体的なテーマに入るわけです。

ここで申しあげるまでもなく、多摩川では非常に早い段階から住民の意向を丁寧に行政の方で聞いて、お互いの交流が深まって河川整備計画ができあがったわけです。河川審議会で河川整備計画が決まったかなり初期の段階に属しますけれど、ご存知のように97年に河川法が改正になって、河川整備計画をたてるにあたっては、住民の意向を考慮しなければならない(とは書いてありませんが)ことになりました。

おそらくそういう意味で、多摩川はそれまでに素地ができていたので、非常に早い段階で河川整備計画が審議会を通ったわけですが、これは大きな方向を決めたものであって、具体的に川の流量をどこでどういうふうに考えるかということは、今日発表されるいろんな解析計画に基づくわけです。

河川法改正になった直後に、政府筋では「健全な水循環系構築に関する関係省連絡会」というのができました。そこでの旗印というのは、“健全な水循環系”をつくらうということです。ということは、どこの川も不健全になってしまったわけで、それを健全な水循環系に戻そうということです。とは言っても、健全な水循環系とは何であるかということになりますと、現在どういう水循環があるのか、もちろんその中には水質の移動も含めて、現在水循環がどうなっているのかをよく把握しないと、あるべき水循環系はわからないわけですね。

そこで今日はそういう意味での水循環系がどうなっているかという、経過報告がございます。これは行政側からですが、住民側からも具体的に多摩川のことを調べた計画がこもごも発表されるわけですので、私の希望としては、それぞれお互いに十分に質問しあって、行政はどこまでできるのか、こういう条件ならこのへんまでできる、ここから先は何か条件が整わないとできないということを聞いて、それぞれの今までの調査経過をここで出して、どういう点をさらに進めれば良いかを語論するのが、今日のひとつの趣旨であろうと思います。こういうものを積み重ねることによって、多摩川における健全な水循環系をどうしたら良いかという方向が定まるのだと思います。

水循環系が変わってしまったのは、ひとつは流域がどうなったかにもよるわけで、日本中、開発が進み都市化が進んだので、川へ出てくる洪水時の流量は増える、一方普段の流量は減るという不健全な状況になったわけですね。と言って、都市化された都市を昔の田んぼに戻すということとはできないわけです。しかし現在の条件で、いろんな事ができなくはない、どうすればできるかということを議論して、将来多摩川が河川整備計画でも全国のトップを走ったように、健全な水循環系の在り方においても、観念論じゃなくて実際の調査を踏まえて、どういう方向に行くべきかというのを探る第一歩になるはずでございます。そういう意味で、ご発表いただく方はもちろんですが、ぜひ熱心な討議を進めて、調査の次の段階はどうしたら良いかということを議論していただきたいと思います。

今日はお休みのところをお集まりいただきまして、集まった以上は熱心に聞き、討議を経て、更に多摩川

のより良い水循環系への第一歩(二歩くらいでしょうけれど)にしていきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

テーマは「みんなの夢を実現しよう！水流実態解明プロジェクト」として、はじめに多摩川流域懇談会会長/東京大学名誉教授 高橋裕先生より「多摩川に健全な水循環を取り戻すための着実な一歩としたい」と開会の挨拶があり、続いて京浜工事事務所と市民側から話題提供を行い、これをもとに後半のディスカッション「多摩川らしい水流とは？」に於いて、水流実態解明プロジェクトの方向性などについて活発な議論が交わされました。

話題提供

●「試行開始から1年半、TRMの中間報告」多摩川流域協議会事務局(国土交通省京浜工事事務所)

・ TRM(多摩川流域リバーミュージアム)についての概要説明

・ 試行期間についての評価・課題について

活動支援の積み重ねにより、活動プログラムの蓄積が出来た。

活動支援を行う際、事前の準備、事後の整理に時間や労力を要することが解った。

活動支援を担う人材育成のため研修を実施したが、多くの学生が参加してくれた。

今後は研修参加者に活動支援の現場での実践経験を積んで頂く事も重要

・ 今後は、多摩川流域の情報のコアセンター及び現地情報拠点を支援する「多摩川情報センター」と「現地情報拠点」を基本構成にして推進していきたい。



●「水流実態解明プロジェクトについて」

・・・多摩川流域協議会事務局(国土交通省京浜工事事務所)

・ 水流実態解明プロジェクトについてパンフレットを使用して説明。

・ 実態の解明の構成や、住民意向の把握としてアンケート調査の実施、流域の意向把握として、水流解明キャラバンの実施、今後の取り組みについて

多摩川水流実態フォトレポートの募集について

「水流解明キャラバンに参加して」○ 野川・平瀬川・二ヶ領用水・浅川

各キャラバンに参加された方々から、各キャラバンそれぞれの問題点等についての報告、感想など

●「シンポジウム“多摩川の水質と流量”を行って」

・・・多摩川市民フォーラム

・ 多摩川市民フォーラムのメンバーを中心とする市民有志によって、昨年9月7日に開催されたシンポジウムの報告。

・ 市民、漁協、行政など様々な人々が集まり、多摩川の現状と課題を確認し、多摩川をもう一步グレードアップして、泳いだり水道水源とするためにはどうしたら良いか。

ディスカッション「多摩川らしい水流とは？」

● どのようにやっていくか？

- ・ 地下水と河川との交流関係に目を向ける必要がある。
- ・ 多摩川をかこむ地下水を含めてマクロなとらえ方で。
→ 水循環は、地下水データの不足と実際の出入りが活発であるが、どのようにおこなっているのかが不明、モデルを作っても不確定なところがある。水循環全体を考え、多摩川の水量水質を考えて行きたい。
地下水についても水循環の大きな流れの中で考えていけたら。



● どう進めていくべきか？

- ・ 水辺の楽校などの取り組みを活かし、多くの市民に多摩川にふれてほしい。その中で課題を共有し、市民の盛り上がりを作って行きたい。
- ・ 支川がきれいになっていけば本川もきれいになっていくと思う。取り組みとして、雨水浸透マスの実践等身近なところで自分の出来ることからまずやろう。
- ・ 下水道には限界があることを認識してほしい。
下水道に対する思いを高めていただき、良い下水道にしていきたい。
油を流さない、浸透マスの設置などの協力をして欲しい。
- ・ 世論を盛り上げるためには潤いのある川作り、景観もその一つ。
いい川になって川とのいい関係が出来ると、水質も気になる。
川は河川局だが、環境局・市民局などと連携していくべきだ。
- ・ ゴミ問題のように、多摩川をより良くしていくために、多摩川流域協議会と市民の方々が協力して取り組んで欲しい
- ・ 川から受ける恩恵は源流域が形成しているが、今は荒れている源流域に雨が降ると一気に川に流出している。
- ・ 源流域を保全するための議論、川に対する議論などを巻き起こす、市民が巻き起こしていく。
- ・ 羽村上流の面積の44%を占める水源林を水道局が管理、保全している。今後は、ボランティア(森林隊)も募集して保全していく。
- ・ 子供にもし遊ぶとしたら、川遊びをしたいとの回答が多かった、川をきれいにしたいという回答もセットになっていた。
今後は子供たちを中心とした川の作り方をしてほしい。
- ・ 源流あつての河口、市民としての関わりをもち、実態に触れることで感性を揺れ動かすことが必要、源流を大切にしたい。

などの多くの意見がだされました。

また、多摩川流域リバーミュージアム(TRM)に関して

- ・ TRMはみんなにとってたいへん夢のある構想なので、限られたメンバーだけで計画を作ってしまうのではなく、「多摩川情報センター」を含め、流域の市民団体など多くの人と議論を重ね、時間をかけて実現していくようにしたい。
- ・ 多摩川流域セミナー等が出た意見を活かして具体的なことに取り組んでいきたい。多摩川から発信して日本の教育を変えていきたい。

という意見も出されました。

最後に、京浜工事事務所の海野修司所長より「多摩川をより良くしていくためには、流域みんなの意識をどのように高めていくかが重要である。現場に接する機会を増やすとともに、この多摩川流域セミナーをもっと積極的に開催していきたい」と挨拶があり閉会しました。

今後、水流実態解明プロジェクトについて多くのご意見をいただき、また多くのご協力をいただきながらプロジェクトを進めて生きたいと思います。京浜工事事務所といたしましても、情報提供を積極的に行っていきたいと思っております。